

明治中葉警官練習所訳官久松定弘等及び
筆記者井土経重（霊山）検討一斑（三訂稿）

—明治警察史の一齣—

（令和 4（2022）年 8 月 9 日（火）現在）

〔目 次〕

（補正経緯）	1
1 はじめに	2
2 久松定弘	2
3 湯目補隆	3
4 賀来熊次郎	3
5 大井和久	3
6 末松松一郎	4
7 朝比奈又三郎	4
8 井土経重（霊山）	4
【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）	5
【関連事項】	6

（補正経緯）

- HP 初出:
- ・平成 22（2010）年 5 月 6 日（木）初稿作成
 - ・平成 22（2010）年 11 月 6 日（土）改訂稿作成
（若松丈太郎氏「警官練習所時代の井土経重—「霊山・井土経重」補考」追加等）
 - ・平成 29（2017）年 8 月 12 日（土）再訂稿作成
（原表題中「筆記者井土経重」を「筆記者井土経重（霊山）」に変更の上、石川實氏論考を追加。その他全体にわたり補訂）
 - ・令和 4（2022）年 8 月 9 日（火）三訂稿作成
（レイアウトを全面変更し、一部補正追加した。）

1 はじめに

周知のように、明治中葉開設の警官練習所¹では、ヘーン警察大尉²、フィガセウスキー警察曹長の講義その他のために、独逸語訳官が置かれ、また、講義録作成³に当たって、専門の筆記者が筆録した。これらについて、最初に本格的に取り上げたのは、高橋雄豺博士（1889～1979）「明治十八年の警官練習所（1～13）」『警察研究』第9巻第4号～第12巻第8号（昭和13年4月～昭和16年8月刊。戦後続稿あり。）と思われる⁴。これは、戦後、同博士『明治警察史研究』第1巻（明治年代の警察幹部教養〈明治十八年の警官練習所・明治三十二年の警察監獄学校・警察協会の警察官練習所—明治年代最後の幹部教養機関—〉）（令文社、昭和35年3月1日刊）に収録されている。その後、独逸語訳官の個々人については、上村直己教授（1939～）「警官練習所の訳官たち」『日本古書通信』第677号（昭和60年12月号、同年12月15日刊）3～5頁、『明治期ドイツ語学者の研究』（多賀出版、平成13年3月31日刊）等が出されている。また、筆記者井土経重（霊山、1859～1935）は、その履歴からして、極めて注目すべき人物である。

本稿では、これら関係者の主要関連文献等を抽出し、今後の検討の一つのよすがとしたい。なお、『内務省人事総覧』第1巻（全3冊。日本図書センター、平成2年12月5日刊）、HP「内務省警保局の人事《1901（M34）～1943（S18）》」

〈<http://www.geocities.jp/kafuka196402/ji.html>〉各参照。

2 久松定弘（訳官。1857～1913。最後の今治藩主の養嗣子、子爵、国立公文書館デジタルアーカイブ参照。）

・上村直己「第3章 久松定弘と『独逸戯曲大意』」『明治期ドイツ語学者の研究』（多賀出版、平成13年3月31日刊）57～79頁

〈<http://www.taga-shuppan.co.jp/books/books.php?id=548>〉

〈<https://kotobank.jp/word/%E4%B9%85%E6%9D%BE+%E5%AE%9A%E5%BC%98-1653261>〉

（文献追加）（平成29年8月12日追加）

・石川實「日本におけるフォイエルバッハの受容とその系譜（1）—久松定弘の場合をめ

¹ 『警察大学校史』（警察大学校学友会、昭和60年3月25日刊）7～19頁。明治18（1885）年3月6日ヘーン大尉来日、警官練習所：明治18年4月20日受業開始～明治22（1889）年3月31日廃止。

² 本HP別稿「ヘーン大尉関係文献抄（再訂稿）」（HP初載：平成19年3月1日作成、逐次改訂中）参照。〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hoen001.pdf>〉平成22年11月6日追加

³ 『警察講義録』（博聞社 明治19年2月28日版權届、6月28日再版）（復刻本：日本立法資料全集 別巻447 信山社出版、平成19（2007）年6月10日刊。形態978p；23cm タイトル 警察講義録 / 井・ヘーン講述；湯目補隆、久松定弘、大井和久、朝比奈又三郎口譯；井土経重筆記 注記 博聞社 明治19年刊の複製）、エ・フィガセウスキー講述、訳官末松、一郎等口訳『警察講義録』（警官練習所蔵版、御用印行所 博聞社、明治19年2月28日刊）等。

⁴ 本HP別稿「高橋雄豺博士著作目録（再訂稿）」（HP初載：再訂稿作成中（第一次補正稿）：平成19年8月3日作成、逐次改訂中）参照。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf>〉

ぐって一」『立正大学哲学・心理学会紀要』第 27 号（立正大学哲学・心理学会、平成 13 年 3 月刊）13～23 頁

・石川實「明治初期社会思想論考—久松定弘の『米国官海濱話』を中心として—」手川誠士郎先生古稀記念論文集編集委員会編『存在の意味への探求 手川誠士郎先生古稀記念論文集』（秋山書店、平成 23 年 3 月 27 日刊）183～214 頁

3 湯目補隆（訳官。ゆのめ すけたか、1858～1936。国立公文書館デジタルアーカイブ参照。）

・差し当たり、下記本 HP 各別稿参照。

・「湯目補隆氏関係資料一斑—日本統治下台湾警察史・明治警察史の一齣—」（HP 初載：平成 21 年 10 月 29 日（木）初稿作成、逐次改訂中）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yunome001.pdf>〉

・「佐倉孫三及び湯目補隆両氏の足跡について—領台初期の日本人関係文献—」（HP 初載：平成 22 年 6 月 15 日（火）初稿作成、逐次改訂中）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakurayunome.pdf>〉

（文献追加）（平成 29 年 8 月 12 日追加）

・石川實「日本におけるフォイエルバッハの受容とその系譜（1）—久松定弘の場合をめぐる—」『立正大学哲学・心理学会紀要』第 27 号（立正大学哲学・心理学会、平成 13 年 3 月刊）19～21 頁（湯目補隆関係分。本論考は湯目の妻が久松定弘妹であることに初めて言及したことでも貴重である。）

・石川實「明治初期社会思想論考—久松定弘の『米国官海濱話』を中心として—」手川誠士郎先生古稀記念論文集編集委員会編『存在の意味への探求 手川誠士郎先生古稀記念論文集』（秋山書店、平成 23 年 3 月 27 日刊）186～187 頁（湯目補隆関係分。本論考は湯目の没年が昭和 11（1936）年であることに初めて言及したことでも貴重である。）

4 賀来熊次郎（訳官。1860～1939。国立公文書館デジタルアーカイブ参照。）

・上村直己「第 5 章 第五高等学校教授 賀来熊次郎」『明治期ドイツ語学者の研究』（多賀出版、平成 13 年 3 月 31 日刊）52、53、63、201～219 頁（賀来は大正 3（1914）年第三高等学校教授で退官。）

5 大井和久（? ～? ）（訳官。詳細不明。国立公文書館デジタルアーカイブ参照：大正 2（1913）年 12 月 3 日第三高等学校教授で退職。なお、大井は所謂旧東京外語の所謂全科卒業生。）

・上村直己『明治期ドイツ語学者の研究』（多賀出版、平成 13 年 3 月 31 日刊）63、145、206、207、289 頁（大井和久については、特に章は設けられていない。）

・前掲『内務省人事総覧』第 1 巻中「内務省職員録 明治 18 年 9 月 1 日改正」によれば、

大井和久の住所は、「麻布区飯倉片町 28 番地独逸人ヘーン氏邸内」(401 頁)とあるので、ヘーン大尉と同居していた模様である。なお、高橋雄豺前掲『明治警察史研究』第 1 巻 52 頁参照。

6 末松松一郎 (? ~?) (訳官。「末松、一郎」とあるが、「末松松一郎」か否か?。詳細不明。)

・エ・フィガセウスキー講述、訳官末松、一郎等口訳『警察講義録』(警官練習所蔵版、御用印行所 東京・博聞社、明治 19 年 2 月 28 日刊、同年 7 月 5 日再刊〈版を変更〉。国立国会図書館デジタルコレクション所蔵)。同書末尾に、「書警察講義録後 訳官 湯目補隆謹識」(1~2 頁)なる湯目の漢文の「書後」がある。

7 朝比奈又三郎 (? ~?) (訳官。詳細不詳。国立公文書館デジタルアーカイブ参照。)

・前掲『内務省人事総覧』第 1 巻中「内務省職員録 明治 18 年 9 月 1 日改正」によれば、朝比奈又三郎の住所は、「赤坂区葵町 3 番地独逸人フィガスチエウスキー[ママ]氏邸内」(401 頁)とあるので、フィガセウスキーと同居していた模様である。

8 井土経重(講義録筆記者。霊山、1859~1935。国立公文書館デジタルアーカイブ参照。)

〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%95%E5%9C%9F%E9%9C%8A%E5%B1%B1>〉

・辻花子[他]編『時代を奔る人、祖父井土霊山を偲んで』(東京 井土一雄、平成 14 (2002) 年 1 月刊)(例えば東北大学附属図書館、福島県立図書館所蔵。未見。)

・若松丈太郎(1935~2021)「霊山・井土経重」『福島・自由人』第 17 号(北斗の会、平成 14 (2002) 11 月 12 日刊) 25~39 頁(福島自由民権大学「相馬大会」発表レジュメ集、49~61 頁(2006 年)に再録との由)

〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8B%A5%E6%9D%BE%E4%B8%88%E5%A4%AA%E9%83%8E>〉(令和 4 (2022) 年 8 月 9 日追加)

・若松丈太郎(1935~2021)「警官練習所時代の井土経重―「霊山・井土経重」補考」『福島・自由人』第 25 号(北斗の会、平成 22 (2010) 10 月 25 日刊) 164~172 頁(上期旧稿執筆時に確認できなかった「井土経重の明治 18 年から 22 年(1885 年から~1889 年)まで四年間の事績をほぼ明らかに」したものとの由)(平成 22 年 11 月 6 日追加)

・警官練習所講義録関係の井土経重関連について、高橋雄豺前掲『明治警察史研究』第 1 巻 74、75、76、89、93 頁各参照

【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）（令和 4（2022）年 8 月 9 日追加）

- ・「法制史学者著作目録選」中「明治警察史コーナー」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉
- ・「松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄一本 HP 収載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』」検討資料」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui002.pdf>〉
- ・「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』（増訂三版、明治 25（1892）年 2 月 18 日刊）」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>〉
- ・「大森鍾一『直興遺篋抄』—「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf>〉
- ・「川路大警視青山墓前の頌徳碑検討一斑（碑文全文、付句読点文、書下し文）—故陸軍少将兼大警視正五位勲二等川路君墓表編修副長官従五位重野安繹撰— 一明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kawaji002.pdf>〉
- ・「佐和正関係文献抄—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawatadashi.pdf>〉
- ・「坂元純瀨、國分友諒両氏の墓所について—中原英典氏のお問いかけを追って—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakamoto001.pdf>〉
- ・「国分友諒顕彰碑について—原田弘先生のお教えに接して—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshoji.pdf>〉
- ・「篠崎五郎関係資料抄—台湾出兵時の徴集隊指揮副長の一人— 一明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shinozaki.pdf>〉
- ・「後藤松吉郎とは誰ぞ—明治警察史・日本統治下台湾警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/goto001.pdf>〉
- ・「裁判医学校乃至警視医学校関係文献一斑—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saiban001.pdf>〉
- ・「『無冤録述』検討一斑—江戸期及び明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf>〉
- ・「続・『無冤録述』の初歩的検討—江戸期及び明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsuzoku.pdf>〉
- ・「ヘーン大尉関係文献抄（再訂稿）」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hoen001.pdf>〉
- ・「明治中葉警官練習所訳官久松定弘等及び筆記者井土経重（霊山）検討一斑—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yakkan.pdf>〉
- ・「岩瀬忠震関係文献抄（六訂稿）—向島・ヘーン大尉表功碑探訪余聞—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/iwase001.pdf>〉

- ・「内務省警視局御用御書物師須原鉄二とは誰ぞ—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/subara.pdf>〉
- ・「高橋雄豹博士著作目録（再訂稿）」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf>〉
- ・「田村豊氏著作目録」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tamura001.pdf>〉
- ・「中原英典氏明治警察史研究関係著作目録抄（参考）渡辺忠威氏警察史関係文献抄」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakahara001.pdf>〉

【関連事項】（令和4年8月9日追加）

- ・法制史学会： 〈<https://www.jalha.org/>〉
- ・国立国会図書館： 〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和4（2022）年5月19日開始）
〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー（令和4（2022）年4月1日追加）
〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉
- ・CiNii: 〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉（【[2022] 4/18 更新】CiNii ArticlesのCiNii Researchへの統合について）、〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉

（了）